

(令和2年) コロナ禍の中、広島・長崎平和集会を開催

KAKKIN は8月5日(水)、広島市のホテルニューヒロデンで広島平和集会を、8月8日(土)には長崎市原爆資料館で長崎平和集会をそれぞれ開催しました。

例年、原爆の日に合わせて全国から参加者を募る平和全国集会和地方中心の平和地方集会を開催してきましたが、新型コロナウイルスの影響により広島・長崎とも大幅に規模を縮小し、地元中心の集会となりました。

広島平和集会は8月5日(水)13時より始まり、主催者を代表して永山博之 KAKKIN 広島議長(広島大学大学院教授・KAKKIN 副議長)の挨拶に続き、本部を代表して加藤秀治郎議長が挨拶をしました。続いて、国民民主党を代表して柳田稔参議院議員、森本真治参議院議員、公明党を代表して山本博司参議院議員から来賓のご挨拶をいただき、多数の祝電の中から、代表して二階俊博・自民党幹事長からの激励とお祝いのメッセージが紹介されました。

カンパ金(医療器具)贈呈は、広島赤十字・原爆病院、(公財)広島原爆被爆者援護事業団と広島原爆障害対策協議会を管轄する広島市、医療法人財団愛人会、特別養護老人ホーム清鈴園の4団体に目録を贈呈し、代表して広島赤十字・原爆病院の古川善也院長より謝辞を受けました。また、広島市より KAKKIN への感謝状を拝受しました。

最後に平和集会アピールを採択し式典を終了した後、永山 KAKKIN 広島議長より「KAKKIN 運動の歴史～韓国被爆者支援活動」と題した講演が行われました。



KAKKIN 広島 永山議長



KAKKIN 本部 加藤議長



広島市より感謝状拝受



永山議長による講演会

長崎平和集会は、8月8日(土)10時30分、長崎市立長崎中学校音楽部「爽(そう)」による“サトウキビ畑”“長崎の鐘”“千羽鶴”の3曲のハンドベル演奏でスタートしました。

式典は被爆者への黙祷で始まり、KAKKIN 長崎を代表して松尾敬一議長が、続いて、KAKKIN 本部を代表して渡邊啓貴議長代理が挨拶をしました。また、来賓挨拶を田上富久・長崎市長、西岡秀子・国民民主党衆議院議員、秋野公造・公明党参議院議員からいただき、中村法道長崎県知事のメッセージが紹介されました。

またカンパ贈呈先は、純心聖母会恵の丘長崎原爆ホーム、長崎純心大学、長崎原子爆弾被爆者対策協議会、長崎県被爆者手帳友愛会、佐世保市総合医療センター、長崎原爆資料館の6団体で、代表して感謝の言葉を長崎原爆資料館の篠崎桂子館長より受けました。最後に平和集会アピールを採択して式典を終了しました。

今年は規模を縮小しての平和集会となりましたが、松尾議長は「開催するか中止するか迷いましたが、全国の皆さんのご協力で集めたカンパの贈呈式を開催することが出来て、本当に良かったと感じています」と語りました。



市立長崎中 “爽”によるオープニング



KAKKIN 長崎 松尾議長



KAKKIN 本部 渡邊議長代行



田上長崎市長



長崎原爆資料館へ寄贈

令和 2 年 KAKKIN 平和集会アピール

原爆犠牲者の御霊に心から哀悼の意をささげますとともに、昭和 20 年 8 月の原爆投下から 75 年の節目を迎え、新たな決意で核兵器廃絶に向けて運動を進めていくことをここに誓います。

私たちは、「NPT（核兵器不拡散条約）」の下で核軍縮と拡散防止を徹底し、核弾頭の削減を着実に進めて、「核兵器のない世界」をめざしてきました。しかし前回 2015 年の国連 NPT 再検討会議では、最終合意文書を採択することができず、いわばこの 5 年間は核拡散防止の指針がなかった状態でした。それだけに今年 4 月に開催される予定だった NPT 再検討会議は重要だったのですが、新型コロナウイルスの感染拡大により来年 1 月に延期になってしまいました。

核兵器をめぐる状況は危機的です。ストックホルム国際平和研究所によれば、2020 年 1 月現在、世界にある核兵器の数は前年よりも 465 発減っているとはいえ 13400 発であり、廃絶には程遠いものがあります。さらに世界の核兵器の 90%以上を保有するアメリカとロシアの間で結ばれてきた INF（中距離核戦力）全廃条約が昨年 8 月に失効しました。また新 START（戦略核兵器削減条約）は 2021 年 2 月に期限を迎えますが、その後の展望は不透明で、核兵器削減の枠組みが崩れつつあります。

このような情勢に対し、日本政府には核兵器の恐ろしさを世界で唯一体験した被爆国として、NPT 再検討会議はもとより、国連や核兵器保有国に対し、廃絶に向けた役割を今まで以上に果たすことを求めます。

一方、エネルギーを考える際に大切なのは 3E+S の視点、すなわち安定供給、経済効率性、環境そして安全性です。とりわけ最近では地球温暖化阻止に向けた COP21 パリ協定での具体策の実行が重要課題になっています。ポイントとなる再生可能エネルギーと原子力をどう活用していくかは各国で異なりますが、日本においても原子力が重要なエネルギー源であることに変わりありません。ドイツは原子力発電を廃止し、再生可能エネルギーにシフトするとしていますが、日本で再生可能エネルギーが主電源になることは現時点では難しいと考えます。

国内の産業を維持し、国民の雇用と生活を守り、パリ協定を踏まえて約束した内容の実現のためには、少なくとも安全性の確認された原子力発電所の早期再稼働が必要です。私たちは引き続き、原子力の平和利用に関する社会的な理解がより一層深まるように活動を進めます。

KAKKIN は真に平和で豊かな世界を実現するために、これからもこの地球から核兵器を廃絶し、原子力の平和利用推進に取り組んでいきます。

核兵器廃絶・平和建設国民会議

令和 2 年 8 月 5 日 広島平和集会

令和 2 年 8 月 8 日 長崎平和集会